



完成後、さっそく講師を務めた東急セミナー「英国パブを愉しむ」受講生を招いてビアパーティー。撮影/山田透

Before



特別寄稿

62万円で実現!

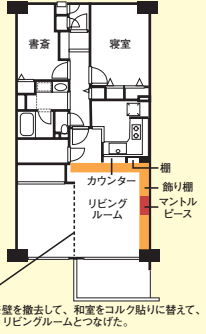
中古マンションをローコストで英国パブ風の家に変える

パブ。人々はその生活を一部に取り込み、そこで笑い、そこでお互いに暖め合う。イギリスに根付くそんな良き文化を、自宅にも取り入れたいと思った。英国パブの楽しさを伝えることをライフワークとする、自称パブライターこと私・白井哲也が、自宅の中古マンションをパブ風にリフォームした。しかも「ハーブDIY」で安く、楽しく一石二鳥!

撮影・文/白井哲也

マンションデータ

リフォーム費用
約62万円
築年1983年
広さ73㎡
間取り
2SLDK
(元は3SLDK)



白井哲也さん 37歳
Tetsuya Shirai

1971年生まれ。96～98年の3年間、日本人学校の教員としてイギリスに滞在。そのときに、パブとエールの魅力に目覚め、帰国後、千早書房より「パブは楽しい～英国・ 아일랜드のカントリーパブを歩く」(45ページに紹介)を出版。勝手につけたイングリッシュネームはTerry。現在は、東京から現地パブの情報をホームページで発信中。http://www.geocities.jp/terryspub

仕事の後、リラックスしたい休日……イギリスではいつでもパブは必須だった。誰でも入れて、語らってもいいし、一人でいてもいい、何しても許される。イギリス人たちの生活スペース。イギリスに滞在して以来、そんなパブの魅力にハマり続けている。マンションを探すときも、カウンターのあつた物件しか探していなかった。中古を購入してパブ風にリフォームしようと決めていた。リビングルームを「誰でも集まり、自然と人の輪ができ、笑いの絶えない場所」にしたかった。パブの装飾スタイルを取り入れることは、そうなつてほしいという一種の願かけのようなものだった。しかし、ヴィクトリア朝の豪華絢爛なパブにすることもできない。普段生活する場所でもあるので、あまりやりすぎると不便にもなるし、飽きが来る。毎日を自然体で過ごせ、家族の笑い、仲間たちの笑いが絶えない。そういう自分たちだけの特別な場所を、自分たちの手で作ろうと思った。予算のこともあるが、どうせならDIYをしたほうが、愛着がわく。3歳の娘にも、「ここはパパが造ったんだぞ」と話してあげられる。ひととおり完成したが、まだまだ手を加えたいところがある。それは家族で楽しみながら進めたいと思っている。

まずパブについて知ろう

2000年間も

地域社会の中心だったパブなら 地元の人の素の姿に触れられる

せっかくイギリスに行ったのに、パブに入らなかつた、という話を聞く。ロンドンなど都会のパブは、単なる飲み屋となっているところも多いが、田舎に行くと「パブの原型」が残っている。住民たちが日常の姿を見せてくれるパブという場所の歴史について、まずはお話ししたい。



パブには、それぞれの地元で作られているエールがある。

地域社会の中心だった「パブリックハウス」

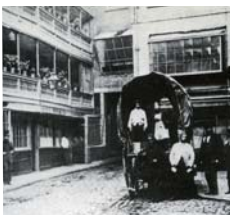
そもそもパブとは「パブリックハウス」の略で、古くは1世紀頃から、巡礼などの旅人の宿屋「イン」、食事の場「タヴァン」、自家醸造したアルコールを給する「エールハウス」なるものが、別々の形で発展し、やがて、それぞれが重複した機能を持つようになったことが起源だ。とくに、「イン」は13世紀以後、カンタベリー大聖堂への巡礼者が多くなつて発展をとげた。16世紀からは、馬車の発達

に伴い、国内旅行が盛んになり、馬車と宿泊する施設「コーチング・イン」が発達した。

「パブリックハウス」は、こういった別々の起源から発展しながら、地域社会の中心として、18世紀ごろには集会所、結婚式場、ときには政治活動の拠点、選挙運動の本部などにも利用されていた。闘鶏やボクシング、演劇そしてパブリカン（パブのオーナー）主宰のサッカーやクリケット大会も行われ、市民のレクリエーション施設の機能も持つようになった。

英国の黄金時代、すなわち、19世紀のヴィクトリア女王の時代に、パブの姿は

変貌を遂げる。上流階級の社交場としてのクラブ、ホテル、レストラン、カフェなどがそれぞれ独自の形で発展したために、パブは単に「居酒屋」の機能だけを持つようになった。



今でも残っているロンドンのThe George Innというパブの19世紀末の写真。旅人が中庭に馬車を乗り入れる。

今でも旧来の機能を失っていないパブは多い。特に地方のパブに行くと、クリケットグラウンドが併設されていたり、市民の情報交換の場として

を施し、個室も含め、部屋を細分化するといった、いわゆる「ヴィクトリアン」調の建物となつていった。これは世界に向けて発展を遂げた大英帝国の当時の風潮と、人々の身分の細分化が進んだことに起因する。

パブにさらばやかな造り、というイメージはここからきたものだ。英国人にとってこの時代は、少なくとも年配層には心のよりどころになっている。彼らにとって「伝統的パブ」とは、とりもなおさず「ヴィクトリア時代」の雰囲気伝えるパブのことを指す。



スコットランド・エディンバラで、伝統的なタイプのエールを守る消費者団体・CAMRAのパブロール（パブのはしご）に参加した。左から2番目は、CAMRA 副会長 Colin=Valentine。

Pub の歴史

1～5世紀	エールハウス・インの原型が誕生。
13世紀	カンタベリー大聖堂への巡礼者の宿泊所として、イン乱立、タヴァン誕生。
14世紀	リチャード2世・パブサイ（看板）を義務づける。
16世紀	四輪馬車の誕生に伴い、国内旅行発達し、コーチング・インが誕生。
17世紀	市民革命の活動拠点となる。
18世紀	ビール会社によるパブ経営（Tied system）開始、19世紀にかけて流行。
19世紀	ヴィクトリアンパブ誕生。
1865年	それまでのPublic HouseからPubという呼称が使用され始める。
1914年	第1次世界大戦開始に伴い、酒類の販売時間が夜11:00までに制限され始める。
1971年	CAMRA（キャムラ・リアルエール復興のための消費者団体 http://www.camra.org.uk/ ）発足。
1988年	パブの営業時間が朝11:00～夜11:00までに定められる。
1995年	ファミリーパブ（条件付で子ども入店可のパブ）誕生。
2001年	パブの営業時間の延長開始。
2007年	店内禁煙となる。

North Crawleyの街で一番古い教会の隣にあるThe Cock Inn。右側と左側とに入口がある。



街の中心にあるパブには、このような住民向けの掲示板も。求人広告からゴミ出しの日まで。



いつもパブリカンが会話の中心だ。

歴史あるパブはこう探そう

田舎の街に降り立って、ツーリストインフォメーションセンターで歴史のあるパブについて聞いて、行ってみよう。もし、インフォメーションセンターが閉まっているなどして聞けなかつた場合は、次の手がある。

イギリスでは「教会とパブと小学校があれば街ができる」といわれている。街ができるにまず、教会ができ、その教会を建築する大工たちの休憩所として、パブができるからだ。だから、その街で一番古いパブは、街で一番古い教会の隣にあることが多い。一番古い教会より高

い建物を建ててはいけないことになっているので、まずは一番高い教会を目指して行けばよい。

パブに入ったら、最初に「ハイ」などと言って友好的に入ろう。シャイなイギリス人たちは、最初からなかなか話しかけてくれないかもしれないが、旅行者とバーマンとの会話などを聞いていて、その中に入ってきてくれることもある。旅行して住人と話せる機会はそう多くはない。現在は、料理がうまいパブや子どもと入れるパブが増え、旅行者にとっても行きやすい場になったといえる。パブを使って滞在を豊かにしてほしい。



Localと呼ばれる地元の客が日曜日の昼下がり、トランプに興じる。このパブはオーナーが地元のクリケットチームを主宰していた。The Chafford Arms (Fordcombe)。

ハーブDIYで ローコストに

現地パブの ここを再現！

総額
62万円

それぞれ、現地のパブをイメージしながら、このマンションではどのように、しかも安く再現しようかというところを施工業者の担当者と二人三脚で考えていった。



Point 1 古い梁を自分で作る

イギリスの古いパブには、必ず低い天井に何百年も前からの梁が張り巡らされている。パブにするからには梁は必須だ。しかし、古材を使用すると何十万円もかかるので、イミテーションを作ることにした。はじめは知り合いのアンティーク屋に依頼しようと思ったが、話を聞くうちに、自分でできる気がしてきた。700円のSPF材を2本購入し、カンナで削ってデコボコにし、ステインで着色すると、本場には及ばないが、そこそこのものができた。天井に取り付けるのは業者に頼んだが、これが今回いちばん節約できた部分だ。

※ SPF材…スプルス(トウヒ)、バイン(マツ)、ファー(モミ)の混合剤。

材料費 2千円
工期 1日



▲ Kimberleyにある18世紀にできたThe Nelson & Railway Innのダイニングルーム。低い天井に太い貫禄のある梁が並ぶ。

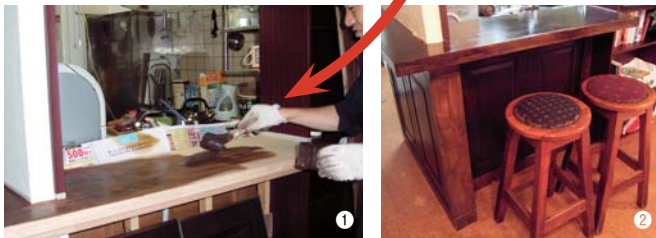


- ① 35mm × 85mm × 3850mmのSPF材を2本ホームセンターで買い、カンナで削った。
- ② このように節ごと削れることも。
- ③ オイルステインを刷毛で塗る。1度塗っただけで、仕上げのニス塗りもしていない。
- ④ 使ったのはワシンのオイルステイン。油性と水性があるが、一度塗りだけにしたかったので、油性を選んだ。
- ⑤ 色ムラと微かな凹凸が本格的な雰囲気を出す。

Point 3 L字カウンターにする

パブのカウンターにはL字型が多く、個人的にもこの形のほうが好き。直線のカウンターに比べ、サーブするほうも受け取るほうも、動線を多く確保できるからだと思う。42ページのBefore写真のとおり、もともと、何の味もないカウンターだったが、どうせパブ風にするならL字型にすることにした。業者の木工費がかさむ部分だったので、塗装は自分でやった。

材料費 10万円
工期 1日



- ① カウンターの高さは約100センチ。ちなみに現地パブのカウンターは120センチ以上あることが多いのだが、日本人には高すぎるのが難点。今回は、日本にあるパブから譲り受けたアンティークのツールの高さに合わせた。ステインで塗装した後、ニスで2回仕上げ。
- ② カウンターによく使われる装飾板(430mm × 780mm)を4枚使用した。この装飾板がなかなか見つからず、業者も根を上げたが、偶然とあるショールームで私が発見し、購入した。



▲ PlumptonにあるThe Halfmoonというパブのカウンターには、クッションと真鍮のバーがついていて、長時間身体を預けていられる。

Point 2 シェルフを塗る

パブでは、その店自慢の骨董品などをシェルフ(飾り棚)に飾っている。42ページのBefore写真でも分かるように、マンションならではの梁が出ていたのを逆手にとって、シェルフにすることにした。板の手配と取り付けは業者に依頼し、板の塗装と腰壁の購入・塗装・取付は自分でやった。

材料費 7万円
工期 1日



- ① 施工業者の作業の合間、材料をサンダーで削って塗りやすくする。
- ② 梁と同じようにステインを刷毛で塗る。



▲ 古い瓶やポット、本、お茶の箱、船、お皿などその店によってさまざまなものが置いてある。パブリカンにそこを褒めてあげると喜ばれるかも。

この店を参考にしました

1530年創業のダービー州で一番古いパブ。天井の梁、カウンター、椅子など、このパブからインスピレーションを得たものは多い。



Ye Olde Dolphin Inn

ジ・オールド・ドルフィン・イン
6-7 Queen Street, Derby, Derbyshire, DE1 3DL ☎ +44 (0) 1332 267 711
ロンドン・ヴィクトリア駅からダービー駅まで電車で約2時間。そこから徒歩約20分。

- ① 施工業者はどうやって探す?
インターネット、雑誌などで調べてもいいが、マンション自体を施工した業者に当たってみるのもいい。デベロッパーや施工会社にリフォーム部門があることも。私は「イメージがよくわからない」「予算オーバー」などの理由で3社に断られた後、デベロッパー関連のリフォーム会社を見つけた。
- ② どこまでリフォームしたいの?
入口のドアの内側から、バルコニー側の窓の内側までが「専有面積」で、使用素材など一定条件さえ満たせば自由にリフォーム可能。その基準はマンションごとに異なる。
- ③ 工事の届け出しにすればいいの?
業者・工期、使用素材について、事前に管理組合に申請。その際、上下左右の隣戸の承認ももらう。
- ④ 工事時間などのルールはあるの?
私のマンションの管理組合では、日曜日を除いた9時~17時と決められていた。
- ⑤ 隣戸とのトラブルはなかった?
承認印をもらいに行く際に、お詫びをして理解を促していた。いたせいで、特になかった。
- ⑥ 業者に施工をお願いした部分は?
カウンターの組み立て、梁・シェルフの取り付け、食器棚に木目調のシートを貼る、など専門のスキルが必要で工事のみ依頼した。
- ⑦ そのほか、苦労した点は?
共用部分の廊下に、資材や機械類を置かなくてはならなかった。工期の1週間くらいは通行の妨げになってしまった。

施工：リック株式会社 リフォーム営業部
☎0120-002-140 http://www.lic-net.jp



「ヴェール・ムース」とは「苔の緑」のこと。
 その苔がむすまで使い続ける百年住宅を目指し、
 自然素材を使った手作りの家を手がける「木村照 創作工房」。
 家をこよなく愛するイギリスの住宅を取り入れ、
 住まい本来の価値を見いだしてくれる。

自然素材を生かした 英国風の苔むす家を創造



ウィリアム・モリスの壁紙を貼ればまさにイギリスの館に。



梁を取り入れる事で家に重厚感を与える。

Vert MOUSSE House Planning 木村照 創作工房

☎ 045-989-4832
FAX 045-989-4833

神奈川県横浜市青葉区青葉台2-18-11

<http://www.koke.co.jp/>

Point 4 食器戸棚を「見せる棚」にする

アイルランドのパブでは、雑貨屋などの店舗を兼ねていることが多い。その名残で、店頭には商品のディスプレイがある。そういう感じを再現したかった。全部作り変えると数十万円になってしまうので、上から木柄のシートを貼って、扉のみ特注して作ってもらった。ここはシート貼り、扉制作・取付などすべて業者に依頼。

材料費 11万円
工期 1日



▲アイルランドのBorrisにある田舎のパブJOYCE'S。ここには雑貨はもう売っていないが、ディスプレイだけは残してある。



①中段には、今後現地で集めてきたものを飾っていく予定。今は大好きなパブから譲り受けたハンドポンプをメインにしている。



②ガラス戸付きのディスプレイ棚。真鍮の取っ手はホームセンターで購入。
 ③もともとは食器棚だったが、上部と中部をパブグッズのディスプレイ棚、下部をパブ関係の本棚、と分けた。



Point 6 シックいを塗る

古い梁に合うような、クリーム色の漆喰を購入し、壁、天井に自分たちで塗っていった。水を混ぜたりする必要がなく、開けてすぐ使えるタイプを合計40kgくらい使用。コテなど使うと重いので、手でペタペタと塗っていった。テープとシートが一体になっている養生シートで養生。それでも、けっこうあちこちにシックいが飛び散ってしまうが、紙粘土と同じ要領で、乾く前に拭き取れば問題なし。

材料費 3万円
工期 2日



現地パブ

▲1683年に建てられた、村で唯一のパブBarley Mow (Kirk Ireton)。このようなシックいと古い梁の組み合わせを再現したかった。



▲シックいはその名も「うまくヌレ〜ル」。娘と遊びながら塗った。
<http://www.plastesia.com/>

Point 5 マントルピースを置く

パブのガイドブックに「Real Fire」というマークがあるほど、暖炉があるかどうかは、パブにとって重要だ。マンションなので、もちろん火はたけないが、「マントルピース」だけは置きたいと思っていた。アンティーク屋などに特注すると10万円くらいしたので、インターネットで探し、いちばんイメージに近いものを購入。

材料費 4万円
工期 30分



現地パブ

▲このパブはマントルピースの上に大きな絵を飾っていたが、このようなスタイルは現地で良く見た。

マントルピース購入先
<http://www.dinos.co.jp/>



▲マントルピースの上にパブから譲り受けた絵を飾り、両側にブラケットライトを取り付けた。暖炉周りはシンメトリーなデザインにしているのを現地でよく見かける。



自分でつくる
ナチュラル
インテリア
主婦の友社 1,050円 (税込)
DIYの実例・ノウハウが
具体的に分かりやすい。



英国スタイルと
アンティークの
部屋づくり
主婦の友社 1,260円 (税込)
イギリス風リフォーム実例
が参考になった。



英国パブ浪漫
吉岡宏 白石書店
1,680円 (税込)
パブ周辺の知識を、
美しい写真とともに紹介。



英国パブの誘惑
前田己治子 双葉社
1,785円 (税込)
パブの歴史や食べ物
についての基礎知識
が分かる。



パブは楽しい
～英国・アイルランドの
カントリーパブを歩く～
文・写真 白井哲也
千早書房
1,575円 (税込)
古きよきパブを訪ね
て、田舎のパブを巡
った紀行文。

本場のアンティークのカタログを活用したほか、以下のような本を使った。業者とイメージを共有するために、具体的に本や写真を使って示していくのがおススメ。

パブ風リフォーム おススメ参考本